

「だいじょうぶ、だいじょうぶ」

石井 美玖

わたしのおかあさんは、こえがとてもおおきいです。からだはちいさいのにこえがおおきいです。わらうときも「わっはっは」と、とてもゆかいにわらいます。

わたしは、ことし、いちねんせいになりました。さいしよは、ワクワクしていたけれどひとりでがっこうにいたり、おしなくもじぶんでしたり、ひとりでやらなくてはいけないことがふえてだんだん、ころろがしぼんでいくようなきがしてきました。あるひ、がっこうからかえって、おかあさんをみたら、かなしいわけでもないのに、なみだがたくさんできてしまいました。そのとき、おかあさんは、

「だいじょうぶ、だいじょうぶ」と、わたしのせなかをトントンしてくれました。そういえばわたしがよくちえんのころにも、ころろでけがをしたとき、

「だいじょうぶ、だいじょうぶ」

とよくこえをかけてくれました。いつもわたしをはげましてくれるまほうのことばです。そのこえは、いつものげんきなおおきいこえではなく、やさしいこえでわたしをげんきづけてくれるのです。ちいさいころから、その「だいじょうぶ」をきくと、だんだんげんきがわいてきて、またたちあがれるようなきがしてくるのです。

けれど、いつもわたしをはげましてくるけど、おかあさんがかなしいときははないのかなとしんばいになりました。おかあさんにきいてみると、

「おかあさんにも、げんきがないときはあるけど、だいじょうぶよ」

と、こんどはげんきなだいじょうぶがかえってきました。おかあさんにもげんきがないときがあるときがありました。おどろきましたが、なんだかすこしホッとしました。

わたしには、まだちいさいからしかなないけれど、いつかおかあさんみたいな「だいじょうぶ」がいえたらいいのになとおもいました。そしていつか、おかあさんがわたしにしてくれたように、こんどはわたしが、おかあさんがげんきがないときに

「だいじょうぶ、だいじょうぶ」

とこえをかけてあげたいとおもっています。

このおはなしをおかあさんにはなしたら、「たのしみね。わっはっは」

といわれてしまいました。いつもげんきをわけてくれてありがとう。いつかわたしもげんきをおすそわけするね。